



わたなべ よしまさ
渡辺 佳正 議員
(日本共産党議員団)

地下水保全と家畜ふん尿処理について

問 市内の家畜全体（牛、豚、鶏）のふん尿を分解するのに必要な酸素の量（BOD）を人のし尿に換算すると、約 220 万人分のし尿に相当する。このうち、乳牛 2 千頭分（人のし尿換算で 12 万人分）の余剰ふん尿を処理するというバイオマス発電構想は、技術的にもコスト的にも実現が難しいと考える。方針転換して、市と農家の連携による共同堆肥処理・流通センターの建設運営を考えるべきではないか。

部長 確かに、バイオマス発電の実現は難しいが、民間事業者が断念したわけではないので、市として結論を出す段階ではない。仮に、バイオマス発電構想が頓挫したら、乳牛 2 千頭規模の共同堆肥センターの建設が喫緊の課題だと認識している。

問 畜産酪農が盛んな北海道・九州では、市と農

家が連携して、市の予算も投じて建設運営に取り組んでいる。富士宮市でも同様の取組ができないか。

部長 畜産酪農の割合が大きい北海道・九州では、税金投入に市民の合意形成が図りやすい。富士宮では、市全体の産業を考えたときに、市民全体の合意が得られるかが疑問。

意見 湧玉池や芝川の水質問題と家畜ふん尿の問題は切り離せないのだから、水を守るという観点から、税金投入について市民の合意を得ていくステップが大事。

問 共同堆肥センターの実現性や財源等について議論できる組織の立上げが必要ではないか。

部長 分かりやすい形で進めていきたい。



▲富士山麓の放牧風景



▲湧水群がある猪之頭の陣馬の滝



わかばやし しづこ
若林 志津子 議員
(日本共産党議員団)

児童生徒へのパソコン配備で授業はどう変わるか。教員の研修や ICT 支援員の配置は。

問 令和 3 年 1 月に全児童生徒へパソコンが配備されるが、オンライン授業などの内容、パソコン以外の周辺機器導入は。教員の意見や要望、ICT 支援員の配置はどう考えるのか。

教育長 授業内容は、一斉提示機能や比較機能を使い、意見交換や話し合いを進めるためのツールとして活用。さらに研修を進める。

部長 周辺機器は、現在ある物で対応。教員からはパソコンの台数が増え、使いたい時に使える、家庭で使用できるようになればオンライン学習の幅が広がる一方、遠隔オンライン、プログラミング教育等への不安の声がある。サポートとして、相談できる体制を今後検討し、令和 3 年 1 月当初 ICT 支援員は配置しない。

要望 周辺機器は教員からの要望があれば導入を。教員の不安解消のために講習会、講演会の開催を。ICT 支援員は 1 人でも配置を。

LGBT の人たちが暮らしやすい環境づくりを

問 全国 20 ～ 59 歳の約 6 万人を対象にしたアンケートでは、約 10% の方が LGBT に該当するとの結果が出ている。この結果から、LGBT について知らないではなく、誰もが理解する姿勢が求められている。令和 2 年 4 月 1 日、全国で 13 の自治体がパートナーシップ証明制度を始めたが、当市でも先駆的にパートナーシップ条例を制定すべき。

部長 市民生活展のパネル展や、広報ふじのみや創宮での特集記事掲載、職員向け研修などを行い、周知が図られた。県市長会定例会では県内統一のパートナーシップ制度創設等の提案をしており、県の動向を注視する。

要望 条例制定に向けて市からも意見をあげてほしい。

